

第2次明石市生涯学習ビジョンの策定について

令和3年12月の生活文化常任委員会で報告しました「第2次明石市生涯学習ビジョン」について、明石市社会教育委員会議でのご意見や、パブリックコメントによる意見公募等を踏まえ、ビジョンを取りまとめましたので報告いたします。

1 ビジョン策定の趣旨

2009(平成21)年10月の(第1次)明石市生涯学習ビジョン策定から10年以上が経過し、その間、少子高齢化のさらなる加速、デジタル技術の飛躍的発展、男女共同参画意識や共生社会意識の浸透、さらには、新型コロナウイルスの流行により、生活様式や社会規範・経済活動意識の変革が進み、社会情勢は大きく変化しています。

このようななか、今必要とされる「学び」とは何かを明確にし、行政(市)や中間支援組織のほか、様々な生涯学習関係団体や、民間も含めた生涯学習関係施設などが、生涯学習をどう担っていくのかといった指針とするため、第2次生涯学習ビジョンを策定しました。

2 策定経過

(1) 明石市社会教育委員会議における審議

令和2年3月18日～令和4年3月11日(計7回)

(2) パブリックコメントの実施

①実施期間：令和3年12月13日(月)～令和4年1月15日(土)

②意見件数：21件(4名)

③主な内容：
・活動や他者との関わりを通じて「学びの幅を広げる」というのは新しい視点であり、このビジョンのアピールポイントである。
・ウィズあかしを拠点とした市民活動団体の事例や登録数など、分野型市民活動団体の現状に触れられていない。

など

(3) 関係団体との意見交換

①関係団体：明石生涯学習指導者会、明石市連合まちづくり協議会、明石コミセンサークル連絡協議会

②実施日：令和4年1月～4月

③主な意見：・「楽しみ」の部分がもっと必要ではないか。暮らしの中に楽しい学びがあると思う。

・地域に溶け込めない人が増えてきている中で、このビジョンの考え方は非常に良い。

・少しでも多くの人がまち協の活動につながってほしい。

など

3 ビジョン素案からの主な修正点

(1) 素案で基本方針と位置付けていた項目を、「施策推進にあたって必要な視点」として位置づけ直すとともに、重点ポイントとして位置付けていた項目を、基本方針として位置づけ直すなど、第3章と第4章のつながりを明確にするために基本方針の整理・組み替えを行いました。

(2) 分野型市民活動団体の現状を示すため、ウィズあかしの登録制度を利用している団体・個人の数や、明石ボランティア連絡会の登録グループ数などを13ページに記載しました。

4 ビジョンのポイント

従来の生涯学習は、他人から新たな知識を得る「習得型」の学びが中心でした。しかし近年では、「自分の経験」「他の人との関わり」「様々な活動」を通じて新たな気づきを得られることが確認されており、これまで生涯学習という認識が低かったこれらの活動の中に自分を成長させる「発見型」の学びがあるという考え方が重要視されています。

そこで本ビジョンにおいては、「活動」そのものが学びであり、支援すべき「生涯学習」に含めるという視点をポイントとし、下記の5つの基本方針に即した取り組みを進めていきます。

基本方針1：様々な形態の学習機会を創出し学びの幅を広げる

基本方針2：ライフステージを意識した学習の提供

基本方針3：「学び」と「活動」の場をつなげる

基本方針4：誰もが等しく学べるための条件整備

基本方針5：生涯学習関係施設の機能充実

【これからの生涯学習のイメージ】

